

# 柳川市観光客動態調査 報告書

平成 30 年 3 月

柳川市観光課

# 目 次

<b>I. 調査の概要</b>	
1. 調査の目的	2
2. 調査方法	2
3. 調査実施日	2
4. 調査項目	2
5. 調査担当	2
6. 実査の状況	2
7. 用語の定義	3
<b>II. 調査結果の概要—観光の現況と特徴</b>	4
<b>III. 調査結果の分析</b>	
1. 回答者の属性	10
2. 居住地と旅行形態	12
3. 同行人数	15
4. 旅行形態	16
5. 訪問回数	17
6. 訪問理由	18
7. 観光消費額	20
8. 満足度	20
9. 改善要望事項	23
<b>IV. 宿泊客動態</b>	25

調査票

# I. 調査の概要

## 1. 調査の目的

本調査は、観光動向の変化を把握し今後の観光施策の推進に資する資料を作成することを目的とする。動向を把握するために平成20年、平成23年、平成26年の調査結果と比較する。

## 2. 調査方法

市内の主要観光地点3ヶ所を選定し、各々の調査地点で調査員が直接観光客に、アンケート調査票による聞き取りを行い、調査票(29頁参照)に書き込む方法をとった。宿泊施設の宿泊客を対象とした調査は、宿泊施設のフロントに調査に対する協力を依頼してアンケート用紙を預け、後日あらためて回収する方法で行った。

## 3. 調査実施日

	6月	8月	11月	2月
日(曜日)	17(土)、18(日)	26日(土)、27日(日)	25日(土)、26日(日)	17日(土)、18日(日)

\* 宿泊施設の宿泊客への調査は、6月18日～11月26日と11月27日～2月18日、2回に分けて実施した。

## 4. 調査項目

- ①観光客の属性
- ②居住地
- ③来訪回数
- ④来訪の目的
- ⑤観光消費額
- ⑥満足度
- ⑦要望事項など

## 5. 調査担当

九州産業大学

## 6. 実査の状況

### (1) 調査地点

- ①西鉄柳川駅
- ②御花周辺
- ③観光案内所周辺
- ④宿泊施設

### (2) 標本数

#### 1) 観光地点

調査日 \ 調査地点	6月	8月	11月	2月	合計	%
西鉄柳川駅前	10	15	25	18	68	13.5
御花周辺	67	75	33	59	234	46.2
観光情報センター周辺	59	52	51	42	204	40.3
回答総数	136	142	109	119	506	
%	26.9	28.1	21.5	23.5	100.0	100.0

## 2) 宿泊施設

	6月18日～11月26日	11月27日～2月18日	合計
A 旅館	24	2	26
B ホテル	15	7	22
合計	39	9	48

## 7. 用語の定義

### (1) 観光客の定義

観光目的の来訪客を狭義の観光客、親戚訪問、買物目的を含めたものを広義の観光客とし、ここでは広義の観光客を用いる。

### (2) その他

- ① n は、比率算出の基数である。
- ② 複数回答可の質問では、回答件数の合計が 100% を越えることがある。
- ③ 回答はすべて百分比 (%) で表し、小数点第 2 位を四捨五入している。そのために百分比の合計が 100.0 にならない場合がある。
- ④ 「九州」には沖縄が含まれている。

## Ⅱ. 調査結果の概要－観光の現況と特徴

### ● 観光客の性別・年代別

**男性が53.4%、女性が46.6%。年代別では「20代」が最も多い。**

観光客の性別構成は、「男性」が53.4%、「女性」が46.6%を占め、年代別では「20代」と「30代」がそれぞれ25.2%と23.5%と全体の中で高い割合を占めている（表2-1）。

表2-1 性別・年齢別構成比

(%)

	性別		年齢別							
	男性	女性	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
全体	53.4	46.6	3.9	25.2	23.5	18.6	13.1	10.1	4.3	1.2

### ● 居住地

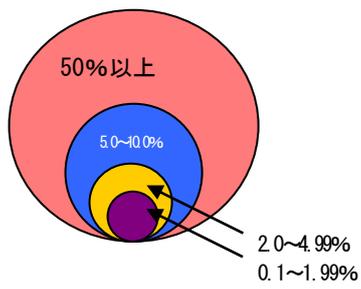
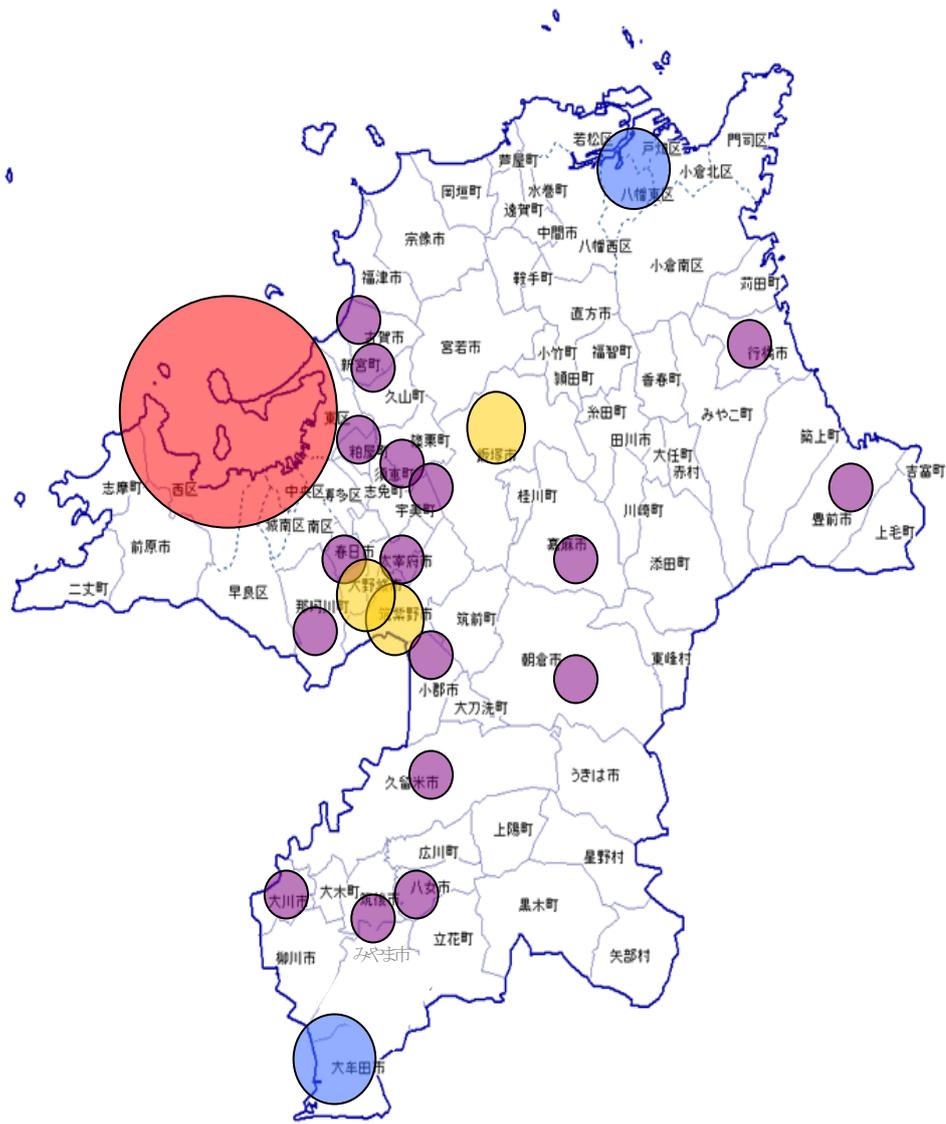
- ✚ 「九州外」 32.1%（前々回 32.6%⇒前回 32.6%）
- 「福岡市内」 25.9%（前回 24.5%）
- 「九州内（福岡県を除く）」 20.8%（前回 19.2%）
- 「福岡県（福岡市を除く）」 19.0%（前回 22.0%）
- ✚ 「九州外」では「中国地方」30.3%、「関東地方」27.7%、「近畿地方」21.9%（前回「中部地方」27.8%、「近畿地方」22.1%、「関東地方」18.6%）
- ✚ 「九州内（福岡県を除く）」では、「熊本県」33.0%、「佐賀県」27.4%、「大分県」13.2%
- ✚ 「福岡県内（福岡市を除く）」では、「筑後地方」40.6%、「福岡地方」33.3%、「北九州地方」16.7%、「筑豊地方」9.4%

「九州外」が最も多い32.1%、次いで「福岡市内」が25.9%、「九州内（福岡県を除く）」が20.8%、「福岡県内（福岡市を除く）」が19.0%を占めている。

「九州外」では「中国地方」（30.3%）、「九州内」では「熊本県」（35.0%）が、「福岡県内（福岡市を除く）」では「筑後地方」（40.6%）がそれぞれのカテゴリーで最も多い。

観光客の割合が全体の2%以上のところを県別でみると、「福岡県（福岡市を含む）」が44.9%（前回46.5%）、「熊本県」6.9%（前回6.2%）、「佐賀県」5.7%（前回2.8%）、「東京都」4.0%（前回3.5%）、「山口県」4.0%、「広島県」3.8%（前回2.0%）、「大分県」2.8%、「長崎県」2.0%（前回4.7%）である。市町村では「福岡市」25.9%、「大牟田市」4.2%、「北九州市」2.6%（前回4.7%）である。前回5.2%であった「久留米市」は0.6%となった

「福岡県」を100とした場合の市町村では、「福岡市」が59.0%（前回53.0%）、「大牟田市」9.5%、「北九州市」5.9%（前回10.1%）となっている。

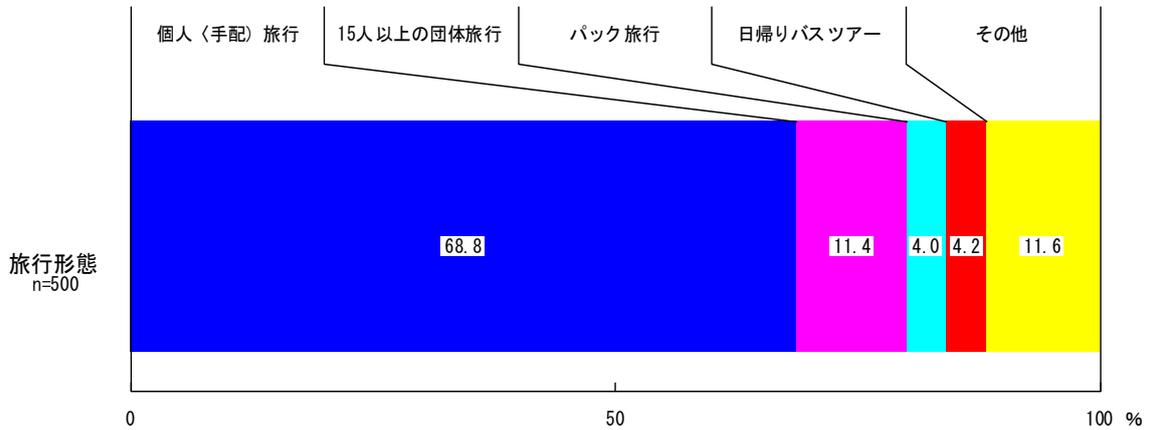


福岡県内の市町村別観光客訪問率(福岡県=100)

## ● 旅行形態

### ✚ 「個人手配旅行」が68.8%

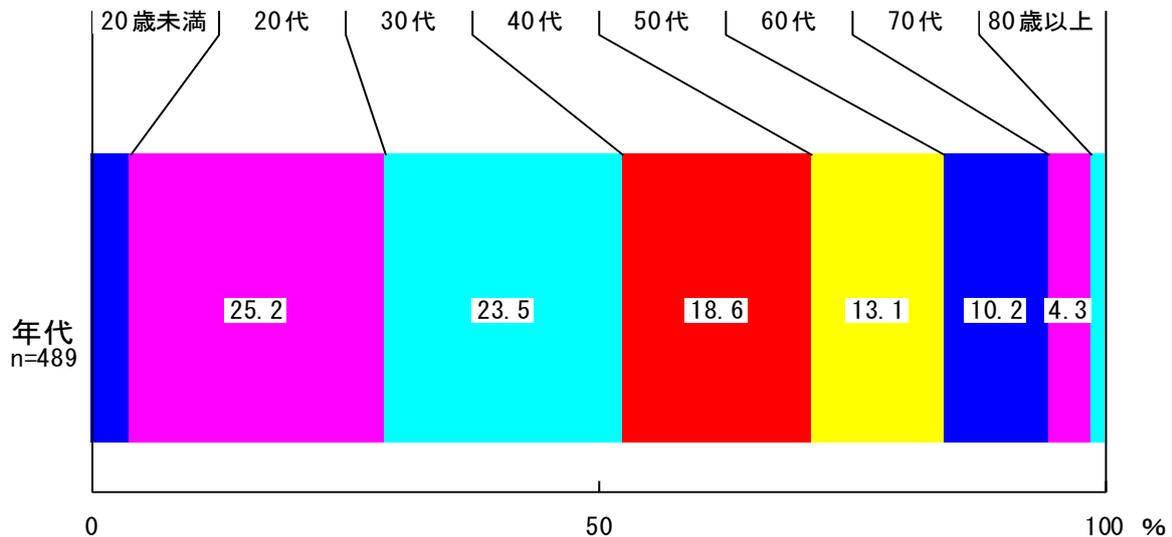
「個人手配旅行」が68.8%と最も多く、「その他」が11.6%、「15人以上の団体旅行」が11.4%を占めている。「パッケージ旅行」が4.0%、「日帰りバスツアー」が4.2%となっている。



「その他」が11.6%を占めているが、「ドライブ」、「散策」のようなプチ旅行が前回より増えている。

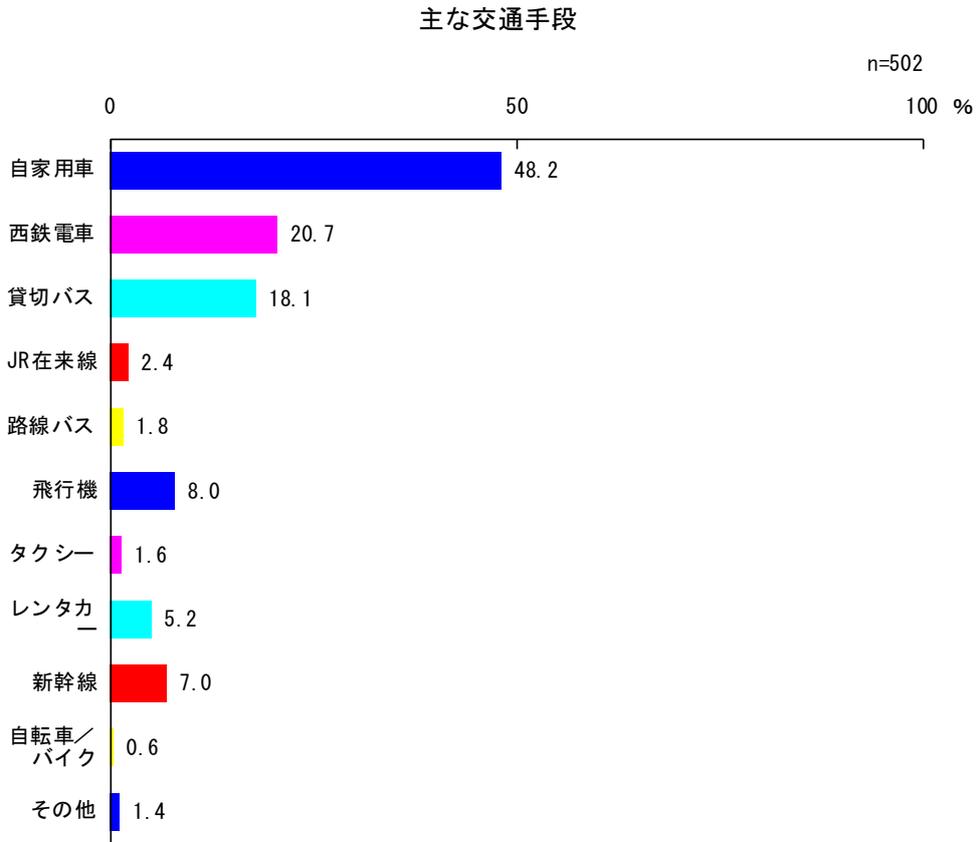
## ● 年齢層

### ✚ 「20代」が最も多く25.2%、次に「30代」が23.5%



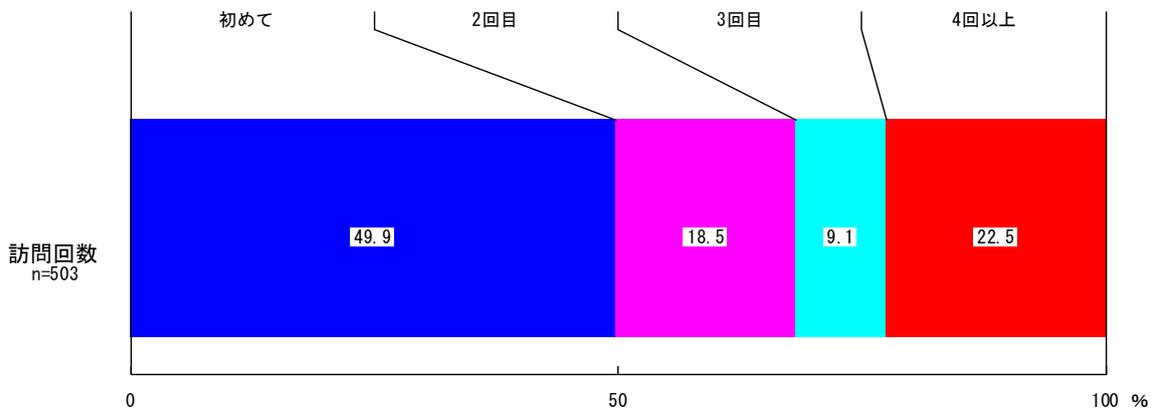
● 主な交通手段

「自家用車」が48.2%、「西鉄電車」が20.7%を占めている



● 訪問回数

「リピーター」が50.1%。中でも「4回以上」が全体の22.5%を占めている

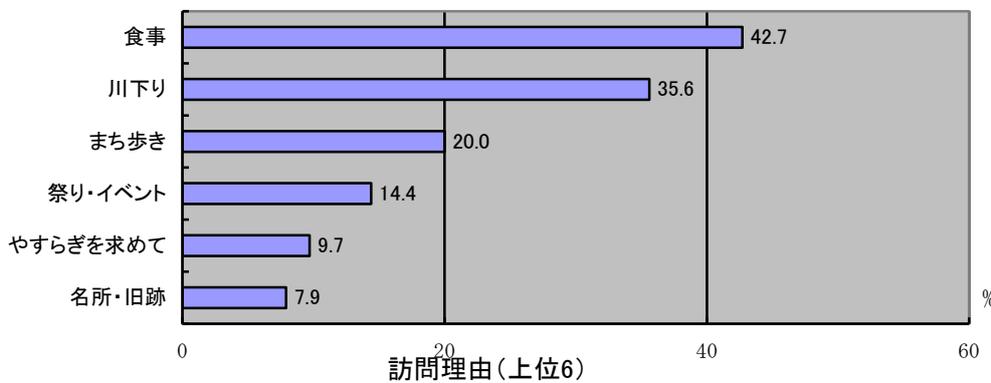


● 訪問理由（観光目的）

**「食事」が訪問目的の第1位に**

- ⬆️ 「食事」(42.7%) (前回 39.2%)
- ⬆️ 「川下り」(35.6%) (前回 43.2%)
- ⬆️ 「まち歩き」(20.0%) (前回 22.4%)
- ⬆️ 「祭り・イベント」(14.4%) (前回 15.6%)
- ⬆️ 「やすらぎを求めて」(9.7%)

訪問理由は、「食事」が42.7%で最も多く、次に「川下り」(35.6%)、「まち歩き」20.2%の順となっているが、前回の調査と比べて「食事」が第1位となったこと、「やすらぎを求めて」、「訪れたい名所・旧跡があるから」の割合が増えたことが特徴である。



● 観光消費額

**⬆️ 観光消費額は全体的に増加。利用率は減少**

観光客の一人当たり平均消費額は「宿泊費」が12,031円、「飲食費」が4,658円、「おみやげ費」が3,634円、「交通費」が1,830円、「川下り費」が1,296円、「入場・観覧・利用料等」が879円である（表2-2）。

表2-2 項目別1人当たりの平均消費額

単位：利用率は%、平均消費額は円

	平成30年		平成26年		平成23年		平成20年	
	利用率	平均消費額	利用率	平均消費額	利用率	平均消費額	利用率	平均消費額
宿泊費	13.2	12,031	6.9	13,385	4.8	11,996	4.6	11,540
飲食費	62.2	4,658	74.2	3,269	76.8	2,614	68.5	2,650
おみやげ費	34.6	3,634	46.0	3,606	35.6	3,183	36.9	2,650
交通費	7.9	1,830	14.5	1,665	22.8	1,281	18.1	1,340
川下り費	33.9	1,296	41.2	1,420	51.4	1,425	32.5	1,410
入場・観覧・ 利用料等	19.8	879	22.0	709	21.5	594	19.6	610

●満足度（“やや満足” + “満足”）（100点満点）

✦ 前回と比べて全ての項目において向上

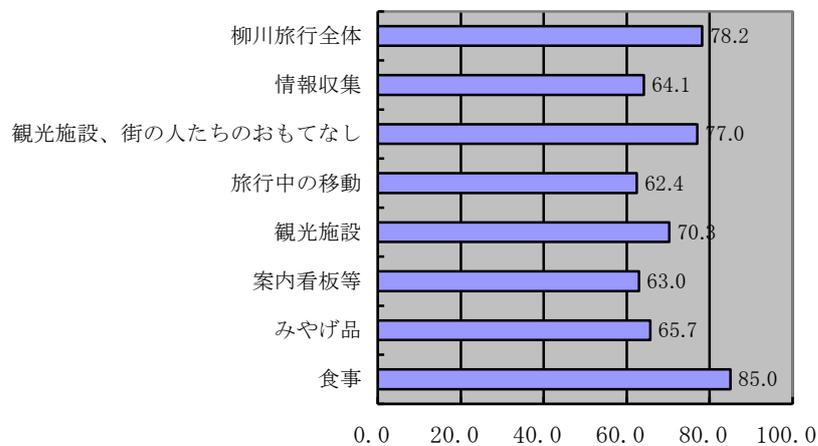


表 2-3 満足度の比較

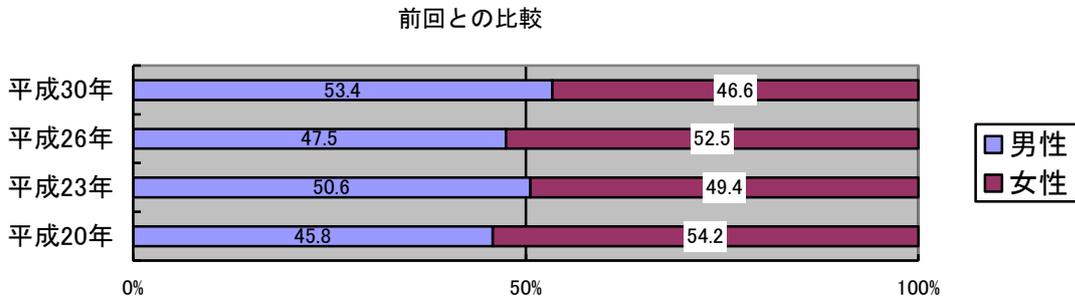
	平成 30 年	平成 26 年	平成 23 年
食事	85.0	79.2	67.8
みやげ品	65.7	49.1	25.8
観光施設やその内容	70.3	61.3	51.6
当地までの案内看板などの整備状況	63.0	48.9	34.2
旅行中の移動	62.4	44.3	35.7
観光施設、街の人たちのおもてなし	77.0	67.4	58.8
当地での情報収集	64.1	49.5	34.7
旅行全体	78.2	74.5	67.5

### Ⅲ. 調査結果の分析

#### 1. 回答者の属性

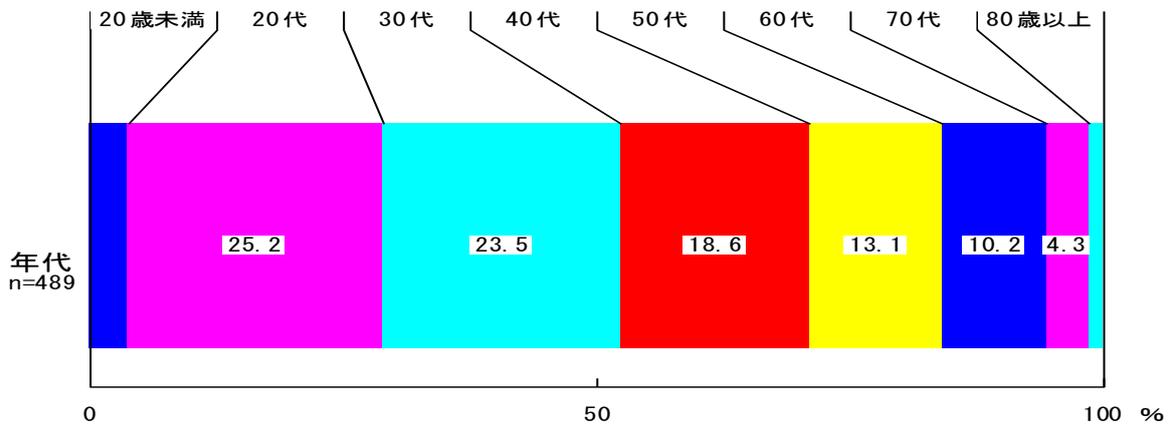
##### (1) 性別

回答者の性別をみると、「男性」が53.4%(前回47.5%)、「女性」が46.6%(前回52.5%)である。

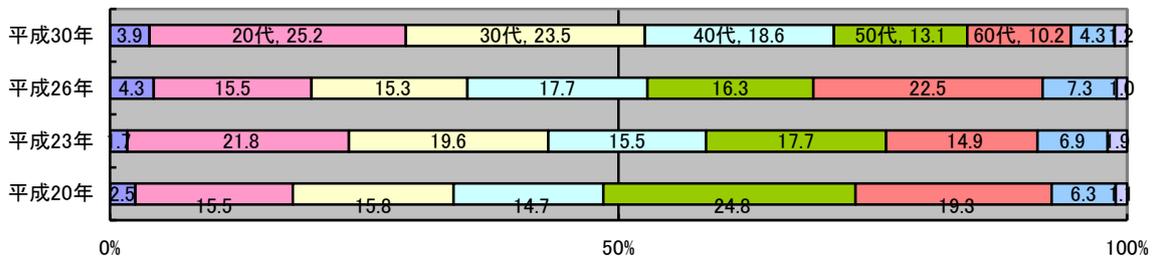


##### (2) 年齢別

年齢別では「20代」が25.2%と最も多く、次いで「30代」が23.5%、「40代」が18.6%となっており、20代と30代が大きく伸びている。

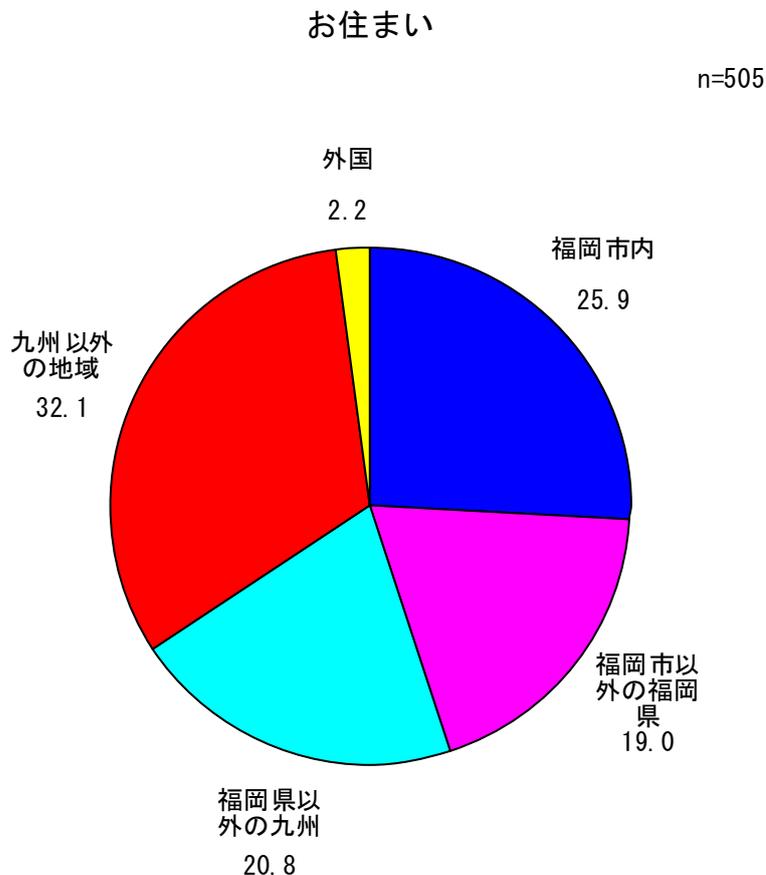


前回との比較



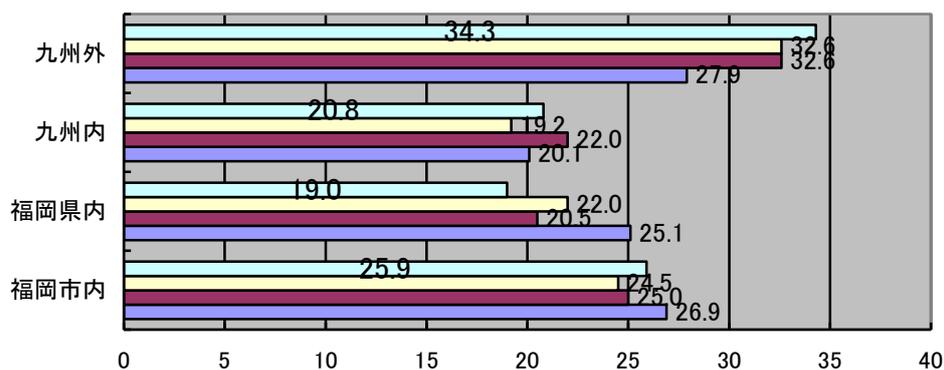
### (3) 居住地

「九州外」が32.1%と最も多く、次に「福岡市内」が25.9%、「福岡県以外の九州」が20.8%、「福岡市以外の福岡県」が19.0%である。九州全体で65.7%を占めている。



前回と比べて「九州外」、「福岡市内」、「福岡県以外の九州」が微増し、「福岡市以外の福岡県内」のみが減少した。外国人の割合は2.2%（前回1.7%）で、国籍は、韓国とアメリカがそれぞれ3人、中国2人、ネパール、ベトナム、マレーシアがそれぞれ1人と前回の韓国9人、タイ1人であったことと比べて回答者の国籍が多様化した。回答者の中には留学生など日本在住の人もいる。全員が観光客とは限らない。また、日本語が通じない外国人はアンケート依頼時に断るケースが多く、本回答者の構成が即、観光客の構成を表すものではないことに注意する必要がある。

居住地の割合(前回との比較)



## 2. 居住地と旅行形態

### (1) 福岡県内

 「福岡地方」が73.3%、「筑後地域」が16.9%で全体の90.2%  
 市町村では「福岡市」が59.4%、「大牟田市」が9.5%、「北九州市」が5.9%

福岡県内では「福岡地方」が73.3%(うち、「福岡市」59.4%)と最も多く、次に「筑後地方」が16.9%、「北九州地方」が7.3%、「筑豊地域」が3.7%である。

前回と比較してみると、地域では「福岡地方」が、市町村では「福岡市」と「大牟田市」が増加した(表3-1)。

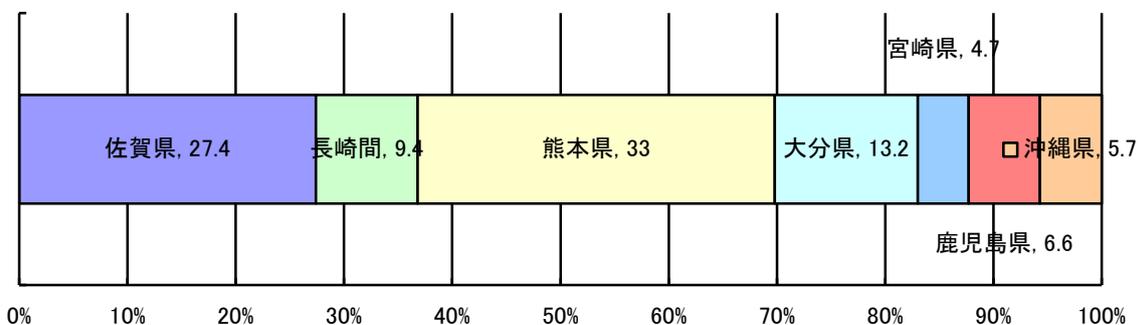
表3-1 居住地

地域区分	市町村	平成30年		平成26年		平成23年		平成20年	
		福岡県内比	全体比	福岡県内比	全体比	福岡県内比	全体比	福岡県内比	全体比
福岡地方	福岡市	59.4	25.9	53.1	24.5	54.1	25.0	52.7	26.9
	春日市	0.9	0.4	0.7	0.3	2.0	0.9	2.6	1.3
	太宰府市	0.5	0.2	1.8	0.8	1.6	0.7	2.2	1.1
	筑紫野市	3.6	1.6	1.8	0.8	2.5	1.1	1.9	1.0
	大野城市	3.2	1.4	1.1	0.5	0.8	0.4	1.6	0.8
	宗像市	0.0	0.0	1.1	0.5	1.6	0.7	1.5	0.8
	古賀市	0.5	0.2	0.4	0.2	0.0	0.0	1.0	0.5
	福津市	0.0	0.0	0.7	0.3	0.8	0.4	0.0	0.0
	糸島市	1.4	0.6	0.0	0.0	1.2	0.6	1.1	0.5
	那珂川町	0.5	0.2	0.0	0.0	0.4	0.2	0.8	0.4
	新宮町	0.5	0.2	0.4	0.2	0.0	0.0	0.4	0.2
	粕屋町	0.5	0.2	1.4	0.7	0.0	0.0	0.4	0.2
	宇美町	1.8	0.8	1.1	0.5	0.0	0.0	0.3	0.1
	篠栗町	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1
	志免町	0.0	0.0	0.4	0.2	0.0	0.0	0.1	0.1
須恵町	0.5	0.2	0.4	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
小計		73.3	31.9	64.6	29.8	65.0	30.0	66.9	34.1
北九州地方	北九州市	5.9	2.6	10.1	4.7	7.8	3.5	6.2	3.1
	岡垣町	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1
	行橋市	0.9	0.4	0.4	0.2	0.4	0.2	0.1	0.1
	豊前市	0.5	0.2	0.0	0.0	0.4	0.2	0.0	0.0
	中間市	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
	上毛町	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
遠賀町	0.0	0.0	0.4	0.2	0.4	0.2	0.0	0.0	
小計		7.3	3.2	10.8	5.0	9.0	4.1	6.9	3.5
筑豊地方	飯塚市	3.2	1.4	0.4	0.2	1.6	0.7	1.4	0.7
	直方市	0.0	0.0	0.7	0.3	0.8	0.4	0.5	0.3
	嘉麻市	0.5	0.1	0.0	0.0	0.4	0.2	0.5	0.3
	田川市	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.4	0.3	0.1
	小竹町	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
	鞍手町	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.2	0.0	0.0
桂川町	0.0	0.0	0.4	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
小計		3.7	1.5	1.4	0.7	4.0	1.9	2.9	1.5
筑後地方	久留米市	1.4	0.6	11.2	5.2	8.2	3.7	9.3	4.8
	大牟田市	9.5	4.2	3.6	1.7	5.3	2.4	4.5	2.3
	大川市	1.4	0.6	0.4	0.2	2.0	0.9	2.6	1.3
	筑後市	0.9	0.4	1.8	0.8	0.0	0.0	2.2	1.1
	みやま市	0.0	0.0	1.8	0.8	0.8	0.4	1.2	0.6
	八女市	1.4	0.6	0.7	0.3	2.9	1.3	1.0	0.5
	小郡市	0.9	0.4	0.7	0.3	1.2	0.6	0.8	0.4
	朝倉市	0.9	1.2	1.1	0.5	1.2	0.6	0.5	0.3
	大木町	0.0	0.0	0.4	0.2	0.0	0.0	0.4	0.2
	うきは市	0.0	0.0	1.4	0.7	0.0	0.0	0.3	0.1
	筑前町	0.0	0.0	0.4	0.2	0.0	0.0	0.1	0.1
	大刀洗町	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
	広川町	0.5	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1
小計		16.9	8.2	23.5	10.9	20.8	9.9	23.3	11.9

## (2) 九州・沖縄圏内（福岡県を除く）

「熊本県」が33.0%、「佐賀県」が27.4%で全体の60.4%

九州内（福岡県を除く）では「熊本県」が35.0%で最も多い。次いで「佐賀県」27.4%、「宮崎県」14.0%、「長崎県」10.0%の順である。



前回と比べて、「佐賀県」が大きく伸びている（表3-2）。「熊本県」「佐賀県」からの旅行者の旅行形態は個人旅行が多く、それぞれ88.2%、86.2%であるが、「長崎県」（55.6%）、「大分県」（50.0%）、「宮崎県」（60.0%）、「鹿児島県」（71.4%）より高い。

表3-2 九州・沖縄圏内（福岡県を除く）からの訪問率

	平成30年		平成26年		平成23年		平成20年	
	九州・沖縄圏内比	全体比	九州・沖縄圏内比	全体比	九州・沖縄圏内比	全体比	九州・沖縄圏内比	全体比 (n=1429)
佐賀県	27.4	5.7	14.9	2.8	24.6	5.4	26.7	5.4
長崎県	9.4	2.0	24.6	4.7	16.1	3.5	13.5	2.7
熊本県	33.0	6.9	32.5	6.2	29.7	6.5	34.0	6.9
大分県	13.2	2.8	9.6	1.8	14.4	3.2	12.5	2.5
宮崎県	4.7	1.0	7.0	1.3	6.8	1.5	3.8	0.8
鹿児島県	6.6	1.4	11.4	1.3	5.9	1.3	5.6	1.1
沖縄県	5.7	1.2	-	-	2.5	0.6	3.8	0.8

## (3) 九州・沖縄圏外

「中国地方」が最も多い30.3%、次いで「関東地方」が27.7%  
都道府県別では、「東京都」と「山口県」がそれぞれ12.9%、「広島県」が12.3%

地域区分では「中国地方」、「関東地方」、「近畿地方」、「中部地方」の順に多い。前回と比べて「中部地方」が大きく伸び、都道府県別では、「山口県」、「広島県」が大きく増加した。東北震災後に一時的に増えた「福島県」からはゼロとなった（表3-3）。

表3-3 九州・沖縄圏外からの訪問率

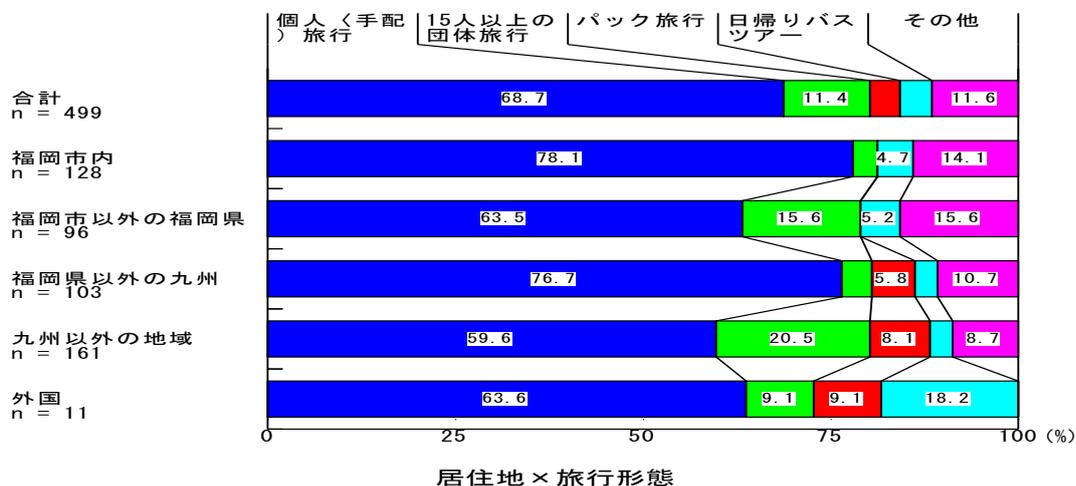
地域区分	都道府県	平成30年		平成26年		平成23年		平成20年	
		九州圏外比	全国比	九州圏外比	全体比	九州圏外比	全体比	九州圏外比	全体比
北海道	北海道	0.6	0.2	0.5	0.2	1.7	0.6	0.8	0.2
小計		0.6	0.2	1.7	0.6	1.7	0.6	0.8	0.2
東北地方	青森県	1.3	0.4	0.5	0.2	0.6	0.2	0.3	0.1
	岩手県	0.6	0.6	1.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	宮城県	2.6	0.8	0.0	0.0	0.6	0.2	1.0	0.3
	秋田県	0.6	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1
	山形県	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.4
	福島県	0.0	0.0	6.7	2.2	1.1	0.4	1.0	0.3
小計		5.1	2.0	8.2	2.7	2.3	0.8	3.9	1.2
関東	茨城県	1.3	0.4	0.5	0.2	1.7	0.6	0.8	0.2

地方	栃木県	3.9	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.8
	群馬県	0.6	0.2	0.5	0.2	0.0	0.0	1.8	0.5
	埼玉県	2.6	0.8	3.1	1.0	5.1	1.7	3.3	0.9
	千葉県	2.6	0.8	0.5	0.2	2.9	0.9	5.4	1.5
	東京都	12.9	3.9	10.8	3.5	14.9	4.8	17.3	4.8
	神奈川県	3.9	1.2	5.2	1.7	9.1	3.0	10.2	2.8
小計		27.8	8.5	20.6	6.8	33.7	11.0	41.6	11.3
中部 地方	新潟県	0.0	0.0	1.0	0.3	0.0	0.0	0.5	0.1
	富山県	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.2	0.3	0.1
	石川県	4.5	1.4	1.0	0.3	0.0	0.0	1.0	0.3
	福井県	0.0	0.0	2.1	0.7	0.0	0.0	0.3	0.1
	山梨県	0.0	0.0	0.5	0.2	0.0	0.0	2.3	0.6
	長野県	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.2
	岐阜県	0.0	0.0	3.1	1.0	1.1	0.4	0.8	0.2
	静岡県	1.3	0.4	2.6	0.8	1.1	0.4	3.6	1.0
	愛知県	3.9	1.2	8.2	2.7	12.0	3.9	9.7	2.7
三重県	1.9	0.6	9.3	3.0	1.1	0.4	0.8	0.2	
小計		9.7	3.6	27.8	9.0	15.9	5.3	20.1	5.5
近畿 地方	滋賀県	1.9	0.6	3.1	1.0	2.3	0.7	0.8	0.2
	京都府	2.6	0.8	1.0	0.3	2.9	0.9	2.3	0.6
	大阪府	5.2	1.6	10.8	3.5	12.0	3.9	9.4	2.6
	兵庫県	5.8	1.8	5.2	1.7	5.7	1.9	5.1	1.4
	奈良県	1.9	0.6	0.5	0.2	2.9	0.9	1.0	0.3
	和歌山県	0.6	0.2	1.5	0.5	0.0	0.0	0.3	0.1
小計		21.9	6.2	22.1	7.2	25.8	8.3	18.9	5.2
中国 地方	鳥取県	0.6	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	島根県	1.9	0.6	3.1	1.0	0.6	0.2	1.3	0.4
	岡山県	2.6	0.8	4.6	1.5	6.3	2.0	1.5	0.4
	広島県	12.3	3.8	6.2	2.0	2.9	0.9	5.1	1.4
	山口県	12.9	4.0	2.1	0.7	8.6	2.8	5.1	1.4
小計		30.3	9.4	16.0	5.2	18.4	5.9	13.0	3.6
四国 地方	徳島県	0.0	0.0	0.5	0.2	0.0	0.0	0.5	0.5
	香川県	0.6	0.2	0.5	0.2	0.0	0.0	0.5	0.5
	愛媛県	0.0	0.0	1.0	0.3	2.3	0.7	0.8	0.8
	高知県	0.0	0.0	0.5	0.2	0.0	0.0	0.3	0.3
小計		0.6	0.2	2.5	0.9	2.3	0.7	2.0	0.6

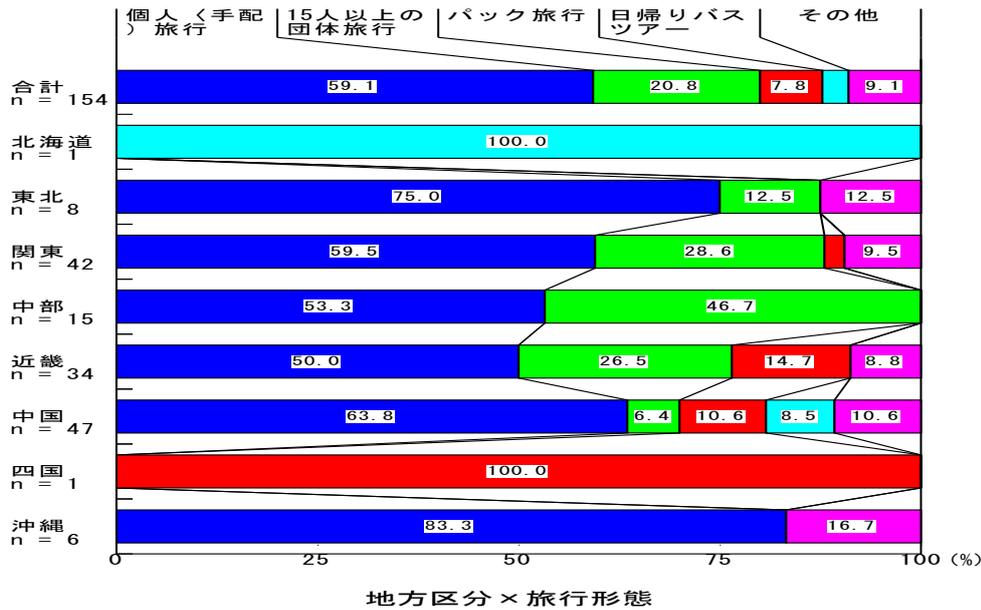
注：外国人11名（韓国3人、アメリカ3人、中国2人、ネパール、ベトナム、マレーシアがそれぞれ1人）

#### （４）居住地別旅行形態

旅行形態を居住地別にみると、個人手配旅行は全体的に高い割合であるが、「福岡市内」、「九州（福岡県を除く）」からが特に高い。「九州以外の地域」からは「15人以上の団体旅行」が、「外国」からは「日帰りバスツアー」の割合が比較的高い。



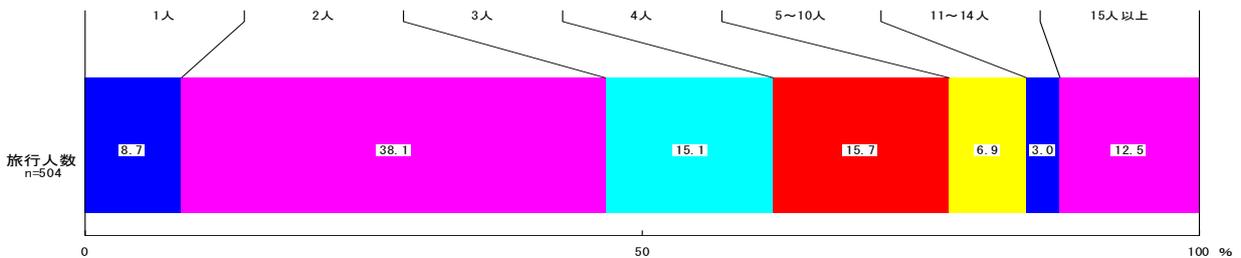
地方の中から一定のサンプル数がある「関東地方」「近畿地方」「中国地方」を見ると、個人旅行が50～63%で、「近畿地方」からの「パック旅行」と中国地方からの「日帰りバスツアー」の割合が他の地方と比べて高いところが特徴的である。



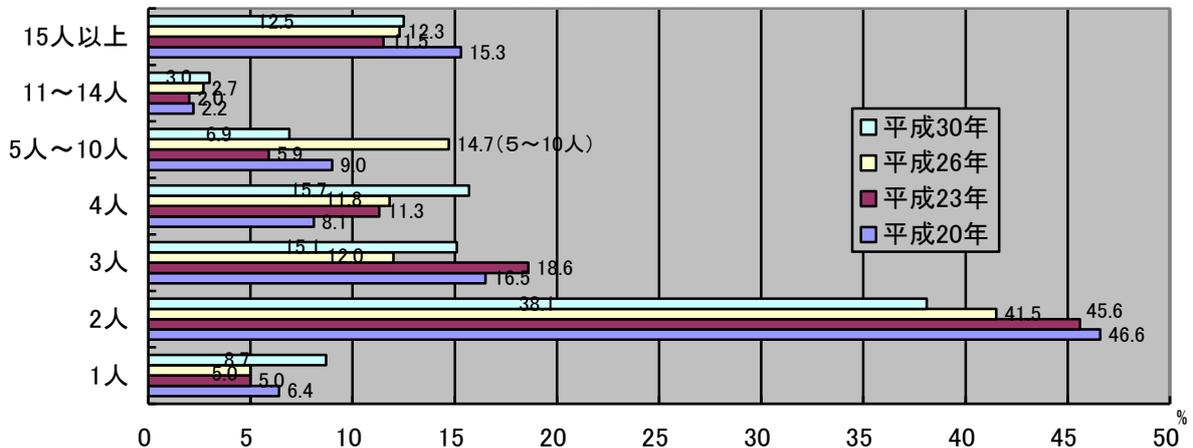
### 3. 同行人数

■ 「2人」が最も多い38.1%、次いで「4人」15.7%、「3人」15.1%の順  
■ 「1～4人」が77.6%

「2～4人」が多く、合わせて68.9%を占めている。前回と比べると、「4人」が若干増えている。今回の調査では、前回の「5人」、「6人」、「7人以上」の区分を「5～10人」、「11～14人」、「15人以上」に変えて調査したが、「15人以上」が12.3%と高い割合を占めている。全体的に「1人」と「4人」が増加傾向である。



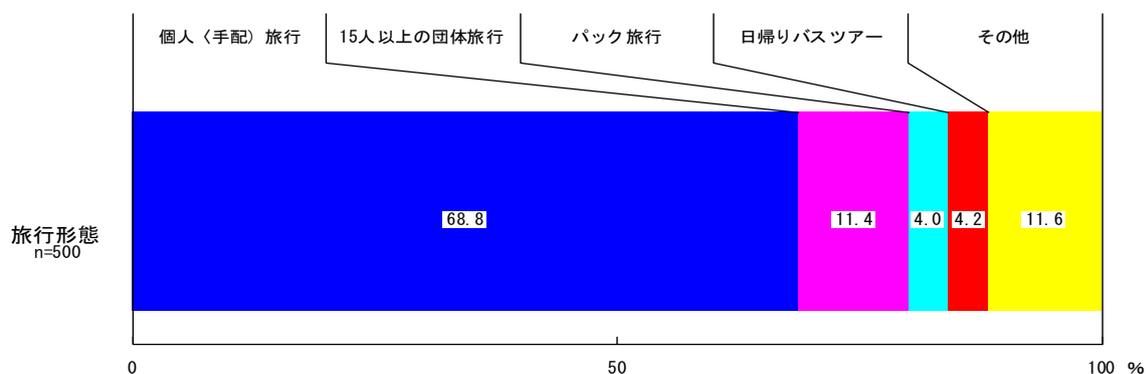
同行人数の比較



#### 4. 旅行形態

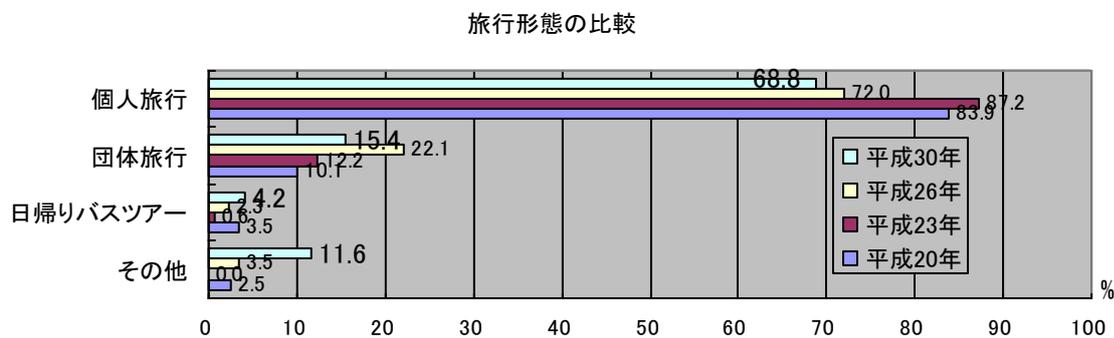
- 「個人手配旅行」が 68.8%
- 「15人以上の団体旅行」が 11.4%、「パック旅行」が 4.0%

「個人手配旅行」が 72.0%、団体旅行が 15.4%（前回 22.1%）（うちパック旅行を利用した割合は 4.0%（前回 9.3%）、「日帰りバスツアー」が 4.2%である



\*平成23年の調査では、「個人旅行」と「団体旅行」、「日帰りバスツアー」に分けて行ったが、前回よりは、旅行会社利用の項目を「15人以上の団体旅行」、「パック旅行」に分けた。

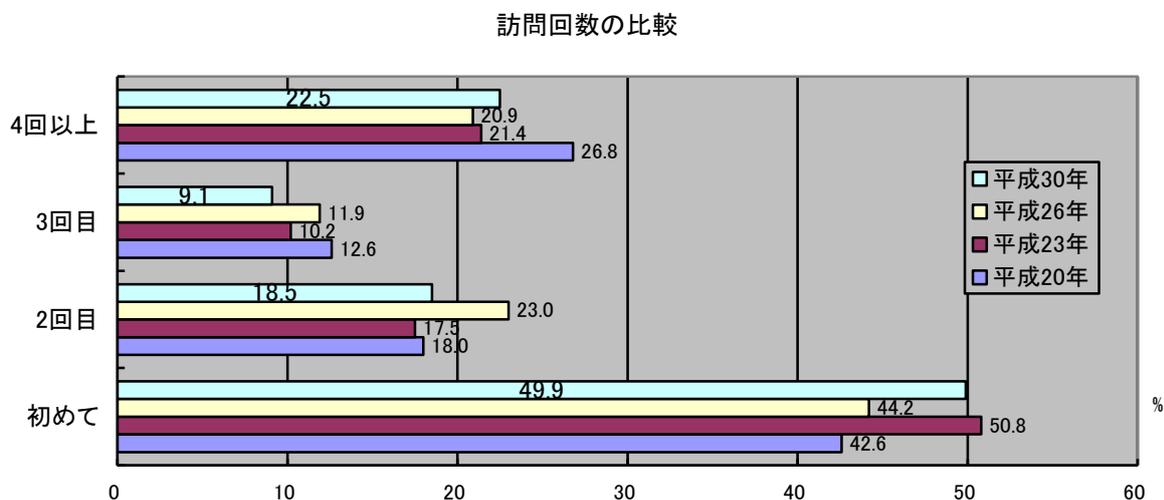
前回と比べて「その他」が大きく伸びているが、「ドライブ」、「散策」のようなプチ旅行が増えたためである。



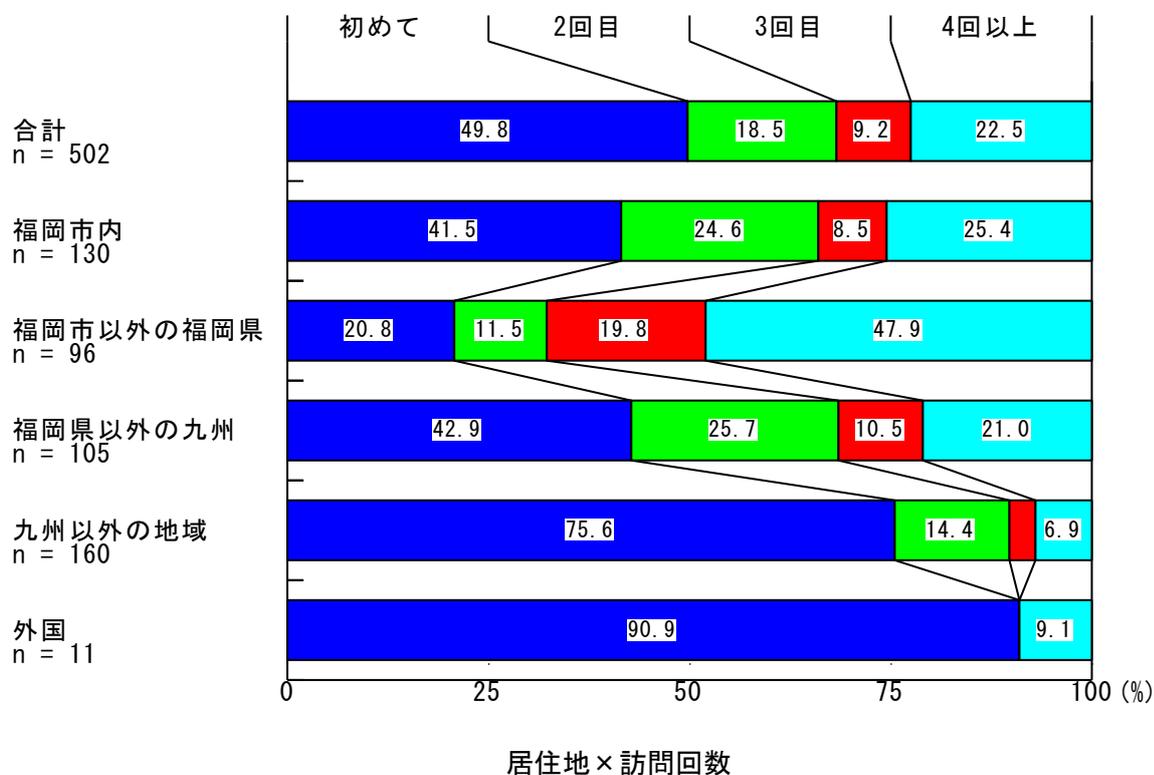
## 5. 訪問回数

「リピーター」が50.1%

「初めて」が49.9%、「リピーター」が50.1%である。「リピーター」の中には「4回目以上」(22.5%)が最も多く、「2回目」が18.5%である。



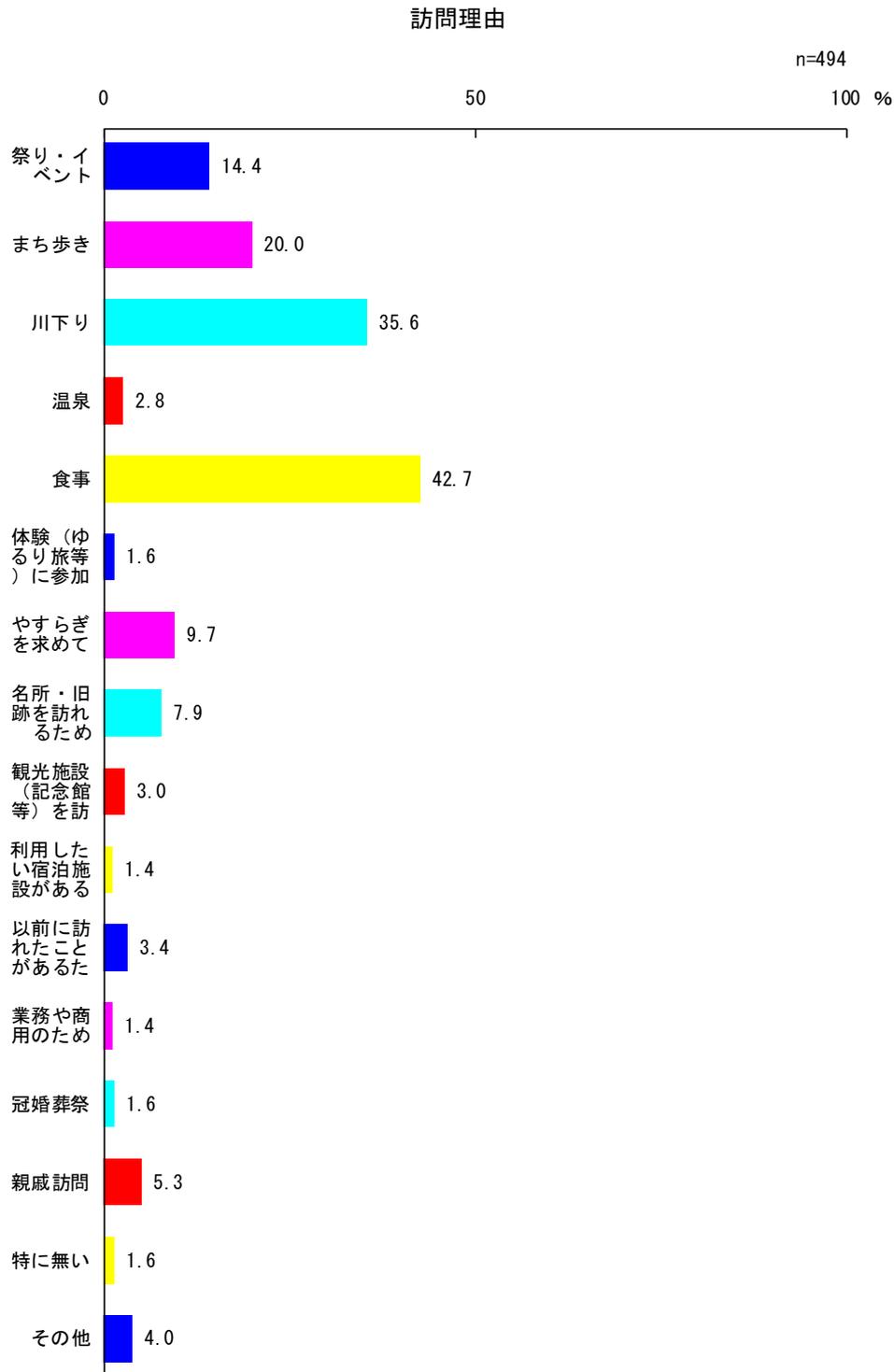
「初めて」の割合は「外国人」が90.9%、「九州以外の地域」が75.6%と高く、「福岡市以外の福岡県」からのリピーター率が79.2%（前回75.8%）と最も高い。



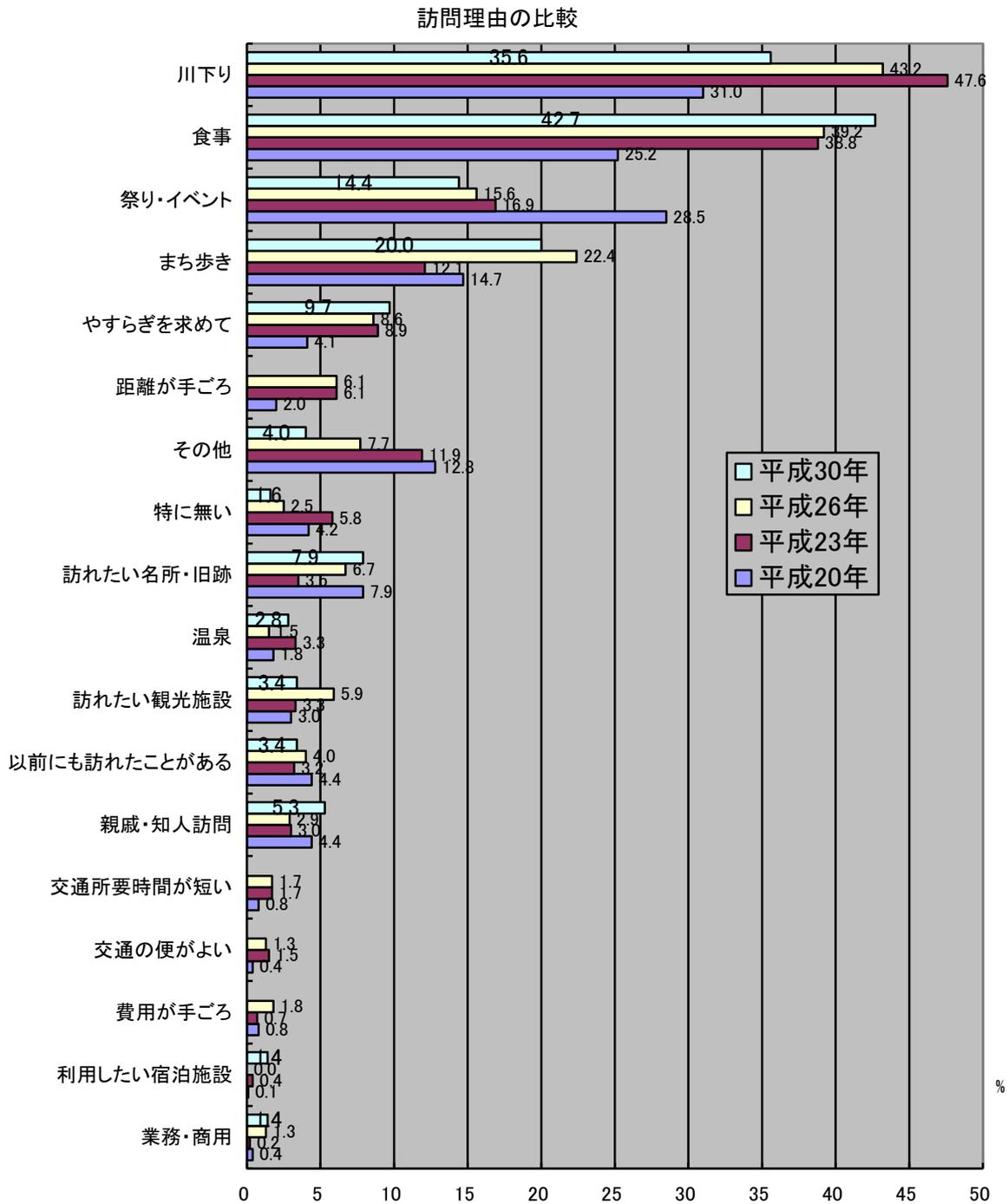
## 6. 訪問理由

訪問理由は「食事」(42.7%)、「川下り」(35.6%)、「まち歩き」(20.0%)、「祭り・イベント」(14.4%)の順

「食事」と「川下り」がそれぞれ42.7%、35.6%と最も高い。他に「まち歩き」が20.0%、「祭り・イベント」が14.4%、「やすらぎを求めて」が9.7%である。



「川下り」、「食事」の割合が依然として高いが、傾向として「川下り」が減少し、「食事」が伸びている。「まち歩き」は前回と比べて減少しているが、20.0%と高く、新しい観光スタイルが定着しつつある。



## 7. 観光消費額

 1人当たりの観光消費額は  
 「宿泊費」12,031円、「飲食費」4,658円  
 「おみやげ費」3,634円、「交通費」1,830円  
 「川下り」1,296円、「入場・観覧・利用料等」879円

1人当たりの観光消費額を項目別で見ると、前回と比べて「宿泊費」が1,354円減であるが、宿泊費率が前回の6.9%から13.2%の増加。「飲食費」が1,389円増であるが、利用率が12%減である。同様に「おみやげ費」、「交通費」、「入場・観覧・利用料金」がそれぞれ28円、165円、170円増であるが、利用率はそれぞれ11.4%、6.6%、2.2%減となっている。「川下り費」は金額と利用率ともに減少し、それぞれ124円、7.3%減となっている（表3-4）。

表3-4 項目別1人当たりの平均消費額

単位：利用率は%、平均消費額は円

	平成30年		平成26年		平成23年		平成20年	
	利用率	平均消費額	利用率	平均消費額	利用率	平均消費額	利用率	平均消費額
宿泊費	13.2	12,031	6.9	13,385	4.8	11,996	4.6	11,540
飲食費	62.2	4,658	74.2	3,269	76.8	2,614	68.5	2,650
おみやげ費	34.6	3,634	46.0	3,606	35.6	3,183	36.9	2,650
交通費	7.9	1,830	14.5	1,665	22.8	1,281	18.1	1,340
川下り費	33.9	1,296	41.2	1,420	51.4	1,425	32.5	1,410
入場・観覧・利用料等	19.8	879	22.0	709	21.5	594	19.6	610

注：利用率は、アンケート票に消費額を記入した観光客数の割合。

## 8. 満足度

 “やや満足”と“満足”を合わせた割合は  
 「旅行全体」78.2%（平成20年計画策定時の平成30年の目標値80.0%）  
 「食事」85.0%（ “ 70.0%）  
 「観光施設、街の人たちのおもてなし」77.0%（ “ 65.0%）  
 「観光施設やその内容」70.3%（ “ 55.0%）  
 「当地での情報収集」64.1%（ “ 50.0%）  
 「みやげ品」65.7%（ “ 50.0%）  
 「当地までの案内看板などの整備状況」63.0%（ “ 50.0%）  
 「旅行中の移動」62.4%（ “ 50.0%）

“満足”または“やや満足”と答えた割合は、「旅行全体」で78.2%である。項目別では「食事」が一番高い85.0%、次いで「旅行全体」（78.2%）、「観光施設、街の人たちのおもてなし」（77.0%）の順となっている。

### （1）目標値の達成状況

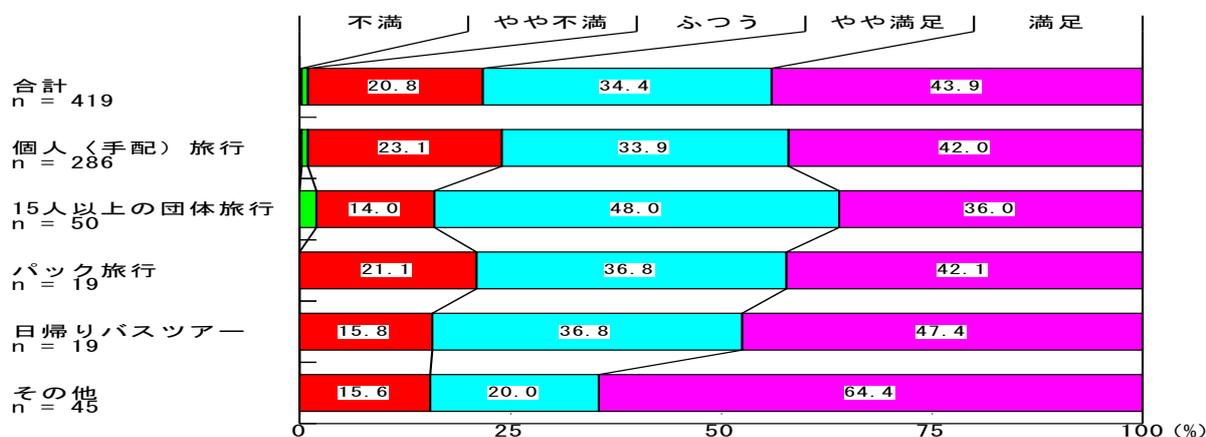
全ての項目において満足度（「やや満足」＋「満足」）の割合が高くなった。「旅行全体」は目標値を1.8ポイント下回っているが、平成20年の調査値より16.1ポイント改善されている。他の評価項目全てにおいても20ポイント以上改善されている（表3-5）。

表3-5 満足度（「やや満足」＋「満足」）の比較

	平成30年調査値	平成26年	平成23年	平成20年	平成20年計画策定時の平成30年目標値	目標値－調査値	10年間の向上値
食事	85.0	79.2	67.8	59.2	70.0	△15.0	△25.8
みやげ品	65.7	49.1	25.8	37.2	50.0	△15.7	△28.5
観光施設やその内容	70.3	61.3	51.6	42.6	55.0	△15.3	△27.7
当地までの案内看板などの整備状況	63.0	48.9	34.2	36.4	50.0	△13.0	△26.6
旅行中の移動	62.4	44.3	35.7	37.3	50.0	△12.4	△25.1
観光施設、街の人たちのおもてなし	77.0	67.4	58.8	54.2	65.0	△12.0	△22.8
当地での情報収集	64.1	49.5	34.7	35.0	50.0	△14.1	△29.1
旅行全体	78.2	74.5	67.5	62.1	80.0	▲1.8	△16.1

## (2) 旅行形態別の満足度

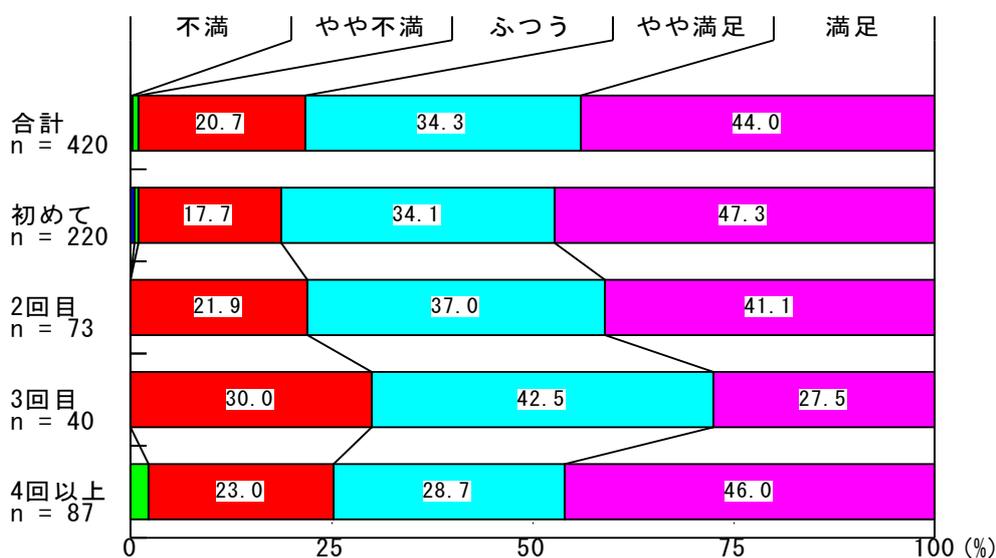
旅行全体の評価は旅行形態別に大きな違いはないが、“満足”または“やや満足”と答えた割合が高い順は「日帰りバスツアー」(84.2%)、「15人以上の団体旅行」(84.0%)である。「個人手配旅行」と「パッケージ旅行」の「普通」と答えた割合がそれぞれ23.1%、21.1%と他の旅行形態より高くなっている。旅行目的が明確になればなるほど旅行に対する期待が高まり、その分評価が厳しくなる傾向があるが、「個人手配旅行」と「パッケージ旅行」は他の旅行形態と比べて満足度が低くなっている。



旅行形態別柳川旅行全体の満足度

## (3) 訪問回数別の満足度

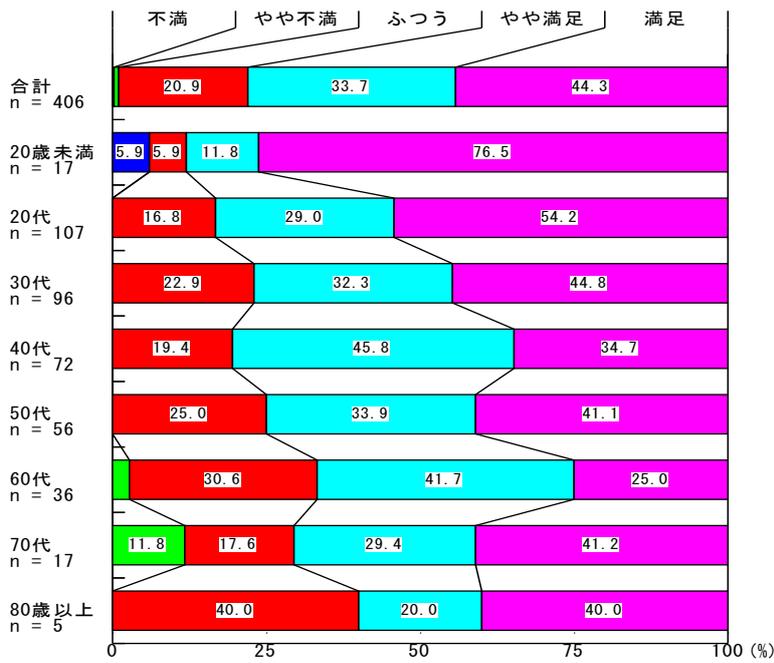
“満足”または“やや満足”と答えた割合は、「初めて」が81.4%、「4回以上」が74.7%であるが、「初めて」から「2回目」、「3回目」となるにつれて低下している(前回の調査でも同様)。リピーター対策が必要であると言える(後述の改善・要望事項を参照)



訪問回数別柳川旅行全体の満足度

## (4) 年齢別満足度

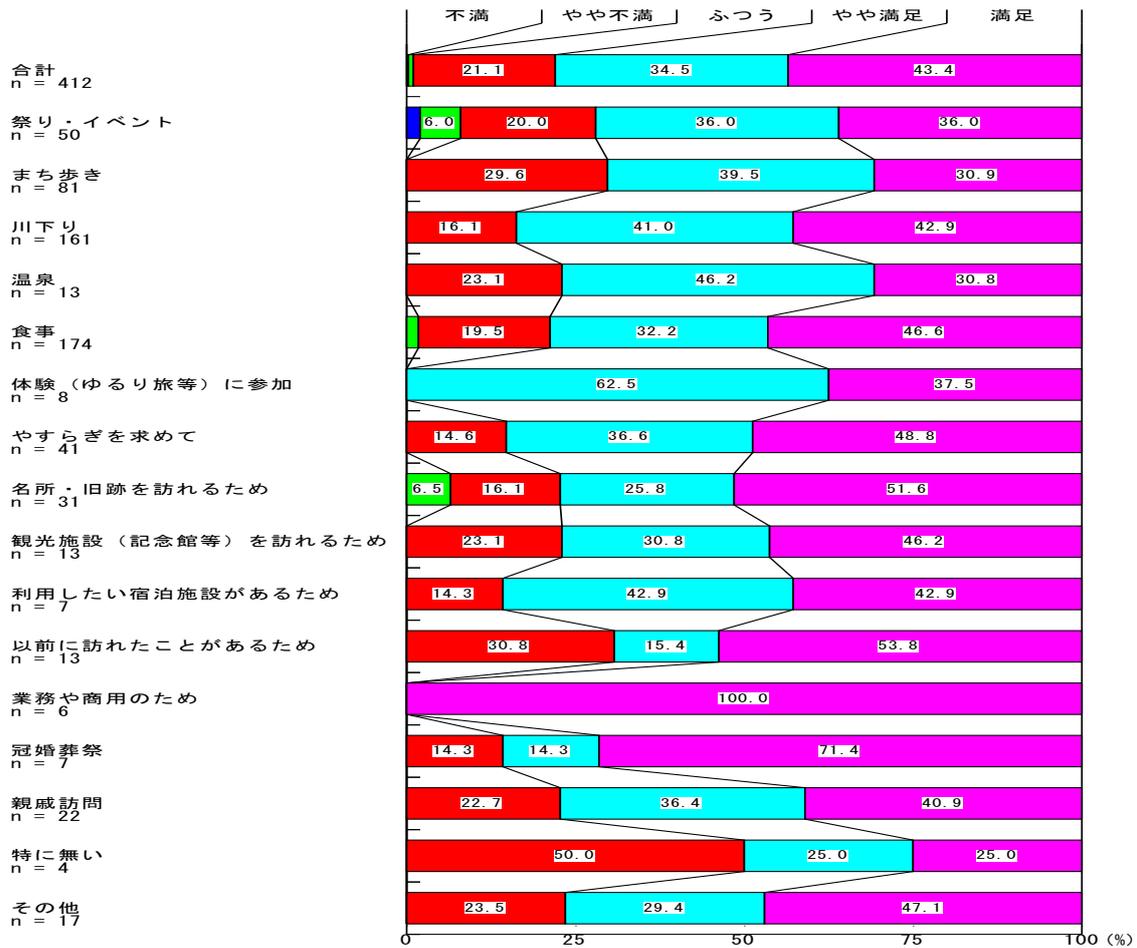
“満足”と“やや満足”の割合が高い順は、「20歳未満」88.3%、「20代」83.2%、「40代」80.5%、「30代」77.1%である。「20歳未満」と「60代」、「70代」においては、「不満」と「やや不満」が一定数ある。



年齢別柳川旅行全体の満足度

(5) 訪問目的別満足度

サンプル数が30以上の観光対象の中で、「満足」と「やや満足」の割合が高い順は、「やすらぎ」85.4%、「川下り」83.9%、「食事」78.8%、「祭り・イベント」72.0%、「まち歩き」70.4%である。

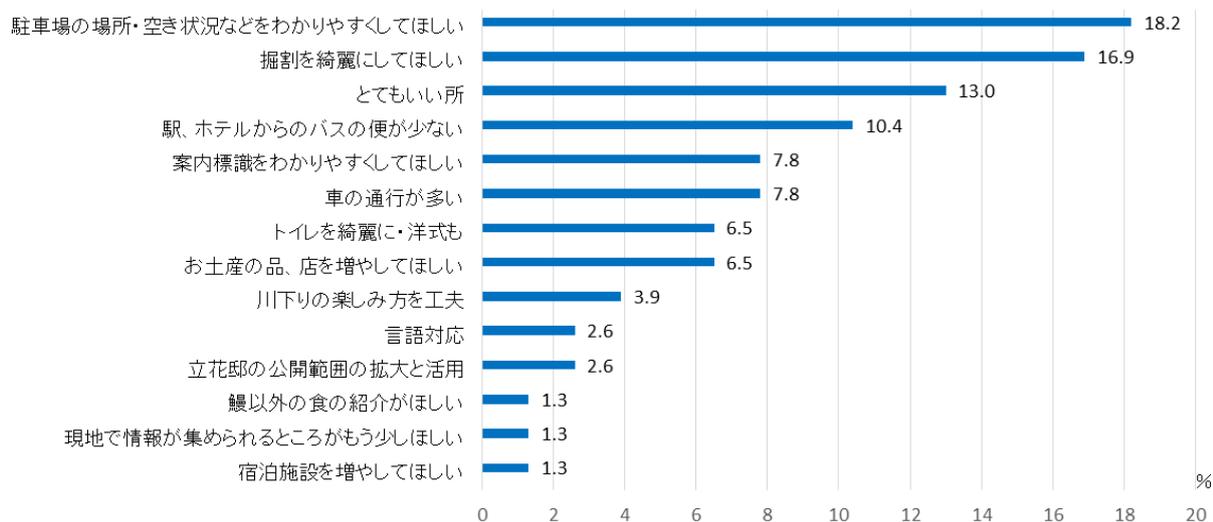


旅行目的別柳川旅行全体の満足度

## 9. 改善・要望事項（自由記述）

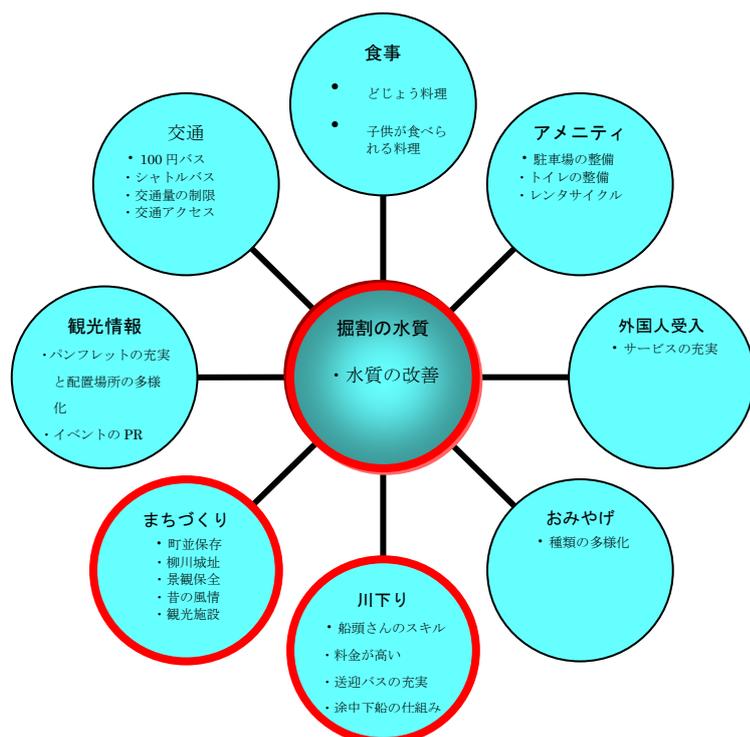
今回のアンケートの自由記述欄に改善・要望事項の記入を頼んだところ 84 名の方から以下の図のような回答が得られた。中には改善・要望と直接関係のない意見が 7 件\*あったためこれらを除いた 77 を母数にそれぞれの割合を出した。それによると、来訪客の約半数が自家用車利用であることもあるが、「駐車場案内の改善」を求める声が多かった。次に「川の水、掘割の周辺をキレイに」、「2 次交通の改善」の要望が多い。一方で「今のままでいい」「また来たくなるまち」「落ち着いた所」などの意見も多く、13.0%ある。

改善・要望事項(自由記述、n=76)



\*「前に来た時より観光客が多くなった」「駅の近くに喫茶店がない。西鉄の駅側にエレベーターとエスカレーターがあるのがよい」「駅周辺に休憩場所がほしい」「食事（鯉）の待ち時間が長い、椅子をもっと出してほしい」「歩きたばこの人が多い」「信号が少ない」「ゴミ箱が少ない」

前回の調査では、「掘割の水質の改善」、「まちづくり」、「川下り」に関する改善・要望の意見が多かったが、今回の調査ではアメニティ（快適性）の向上として「駐車場」、「トイレ」の改善が多く、次が「掘割」に係る改善・要望である。参考として前回調査結果も掲載した。



\*赤色のところは柳川旅行全体の評価に特に影響が大きい要素である。（24 頁参照）

[参考資料]

前回の調査結果から旅行全体への影響度を統計的にみると、旅行全体に及ぼす影響は、「観光施設とその内容」が最も大きく、次に「観光施設、街の人たちのおもてなし」、「食事」、「当地での情報収集」の順となっている。

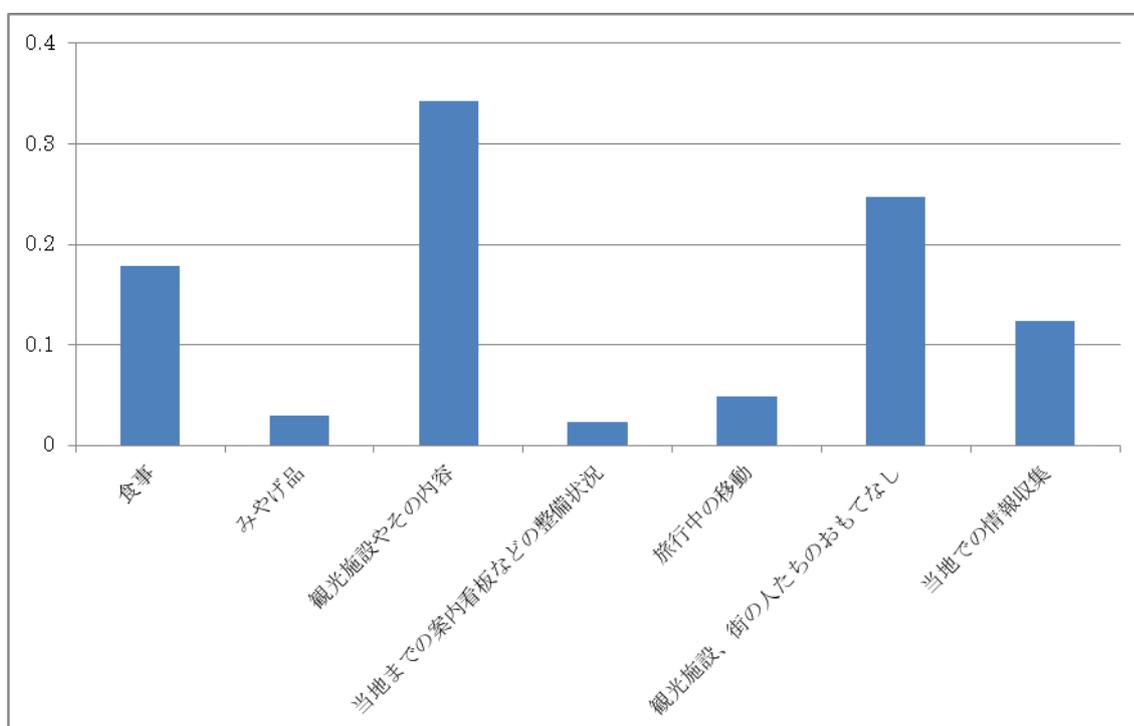
係数<sup>a</sup>

モデル	非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
1 (定数)	-2.589E-15	.033		.000	1.000
Z 得点(食事)	.179	.036	.179	5.033	.000
Z 得点(みやげ品)	2.970E-02	.038	.030	.777	.438
Z 得点(観光施設)	.343	.040	.343	8.542	.000
Z 得点(案内看板)	2.264E-02	.043	.023	.533	.595
Z 得点(移動環境)	4.895E-02	.042	.049	1.156	.248
Z 得点(おもてなし)	.247	.038	.247	6.472	.000
Z 得点(観光情報)	.124	.042	.124	2.916	.004

a. 従属変数: Z 得点(旅行全体)

表 旅行全体への影響

説明変量	標準偏回帰係数
食事	0.179
みやげ品	0.030
観光施設やその内容	0.343
当地までの案内看板などの整備状況	0.023
旅行中の移動	0.049
観光施設、街の人たちのおもてなし	0.247
当地での情報収集	0.124



## IV. 宿泊客動態調査

### 1. 居住地

「九州以外の地域」が38.3%と最も多く、次に「九州（福岡県を除く）」が29.8%を占めている（表4-1）。「福岡市内」と「福岡県（福岡市を除く）」を合わせた福岡県が31.9%と高い割合となっている。

これまでの観光動態調査（日帰り客+宿泊客）結果と比較すると、福岡県以外の九州と九州以外の地域を合わせた福岡県外からの割合が52.9%から68.1%へと大きくなっている

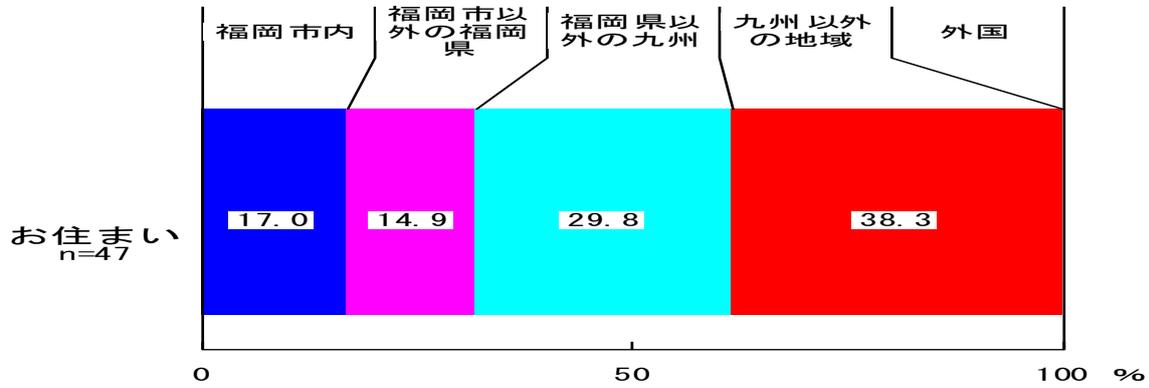
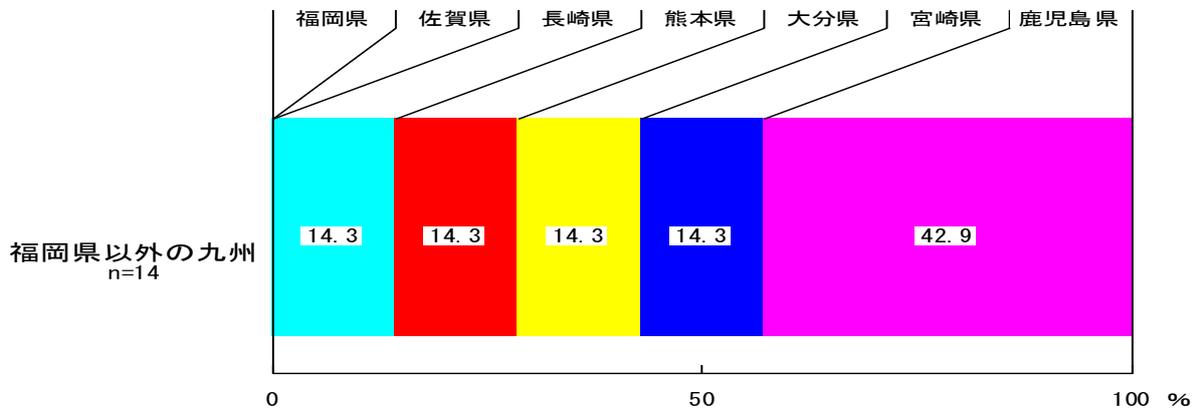


表 4-1 宿泊客の居住地

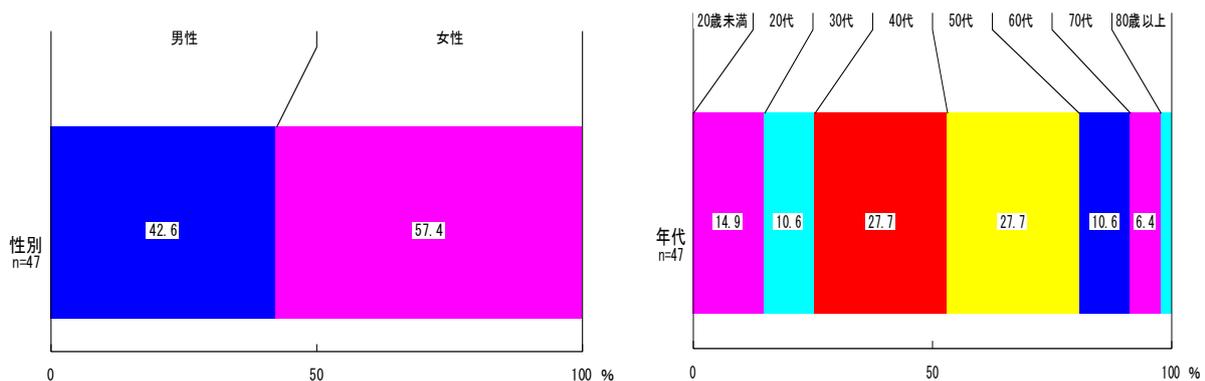
	福岡市内	福岡市以外の福岡県	福岡県以外の九州	九州以外の地域	外国	合計
日帰り+宿泊客	25.9	19.0	20.8	32.1	2.2	100.0
宿泊客のみ	17.0	14.9	29.8	38.3	0.0	100.0

福岡県外の九州地域では「鹿児島県」が42.9%と最も多い。



### 2. 性別と年齢

「女性」が57.4%と多く、「40代」と「50代」合わせて半数以上を占めている。



### 3. 訪問回数

「初めて」が63.8%と、「日帰り+宿泊客」の調査結果と比べて割合が高い（表 4-2）。

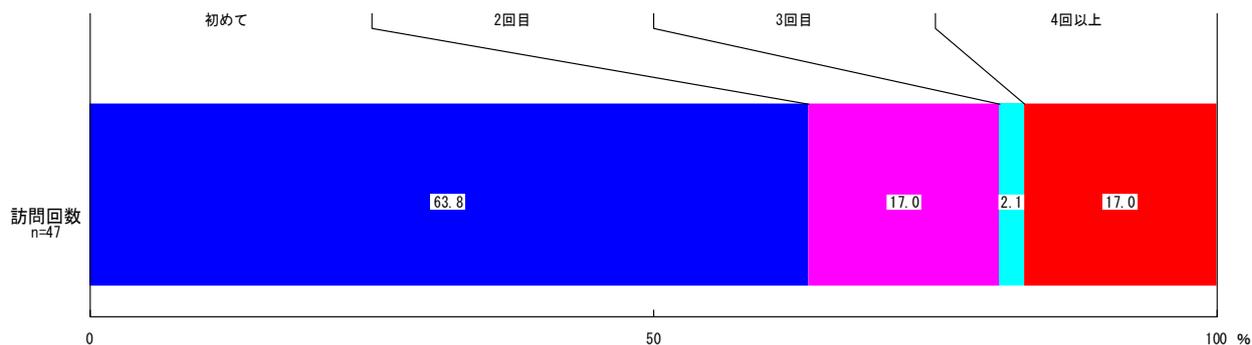
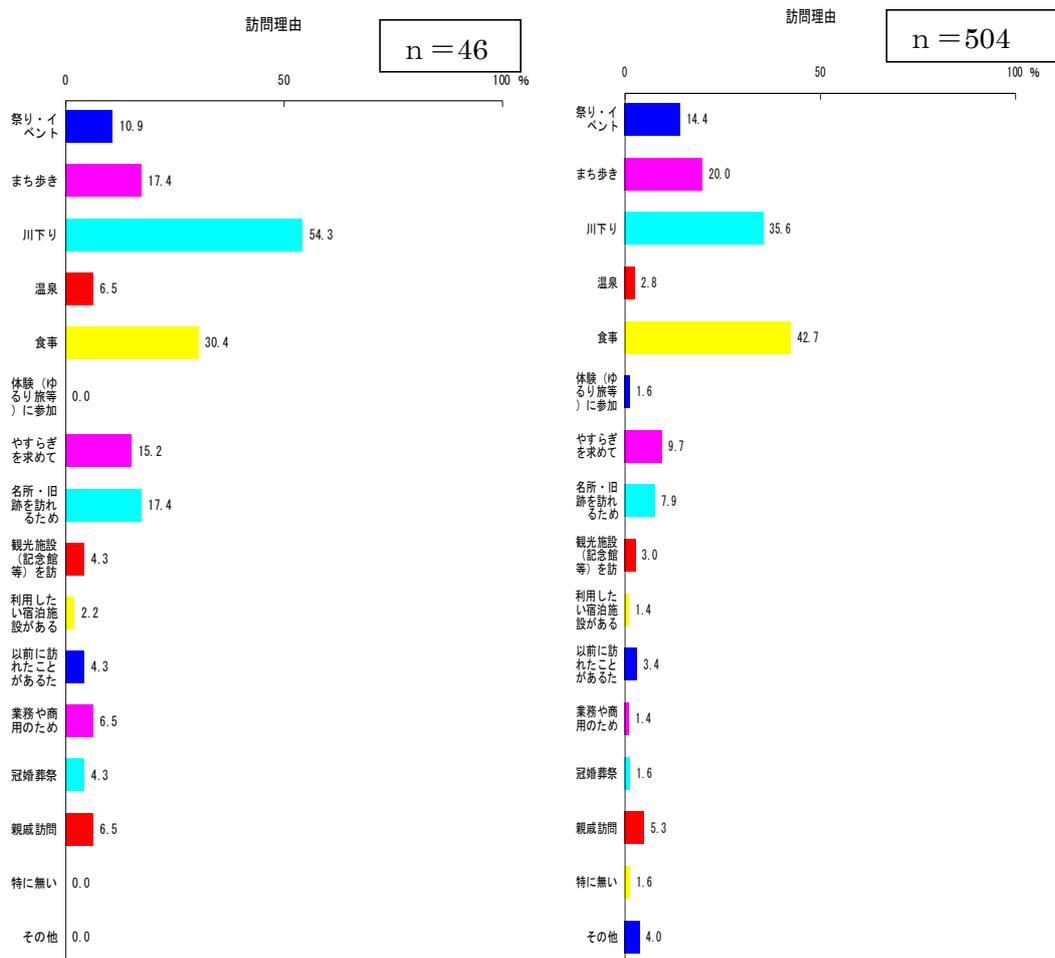


表 4-2 宿泊客の訪問回数

	初めて	2回目	3回目	4回以上	合計
日帰り+宿泊客	49.9	18.5	9.1	22.5	100.0
宿泊客のみ	63.8	17.0	2.1	17.0	100.0

### 4. 訪問理由

「川下り」が最も多く 54.3%である。次に「食事」（30.4%）、「まち歩き」と「名所・旧跡を訪れるため」がそれぞれ 17.4%である。「日帰り+宿泊客」の調査結果と比べると、「川下り」が多く、「やすらぎを求めて」と「名所・旧跡を訪れるため」が多くなっている。



## 5. 満足度

宿泊客対象の満足度調査結果は、「日帰り+宿泊客」対象の結果と大きく異なる。まず、「食事」、「観光施設、街の人たちのおもてなし」、「当地での情報収集」、「旅行全体」の満足度は「日帰り+宿泊客」の結果を上回っている。その理由として、ホテルからの観光情報が得られる点、「観光施設、街の人たちのおもてなし」は「日帰り+宿泊客」対象の調査でも高い満足度を得ているが、宿泊客の場合、地元の人に接する機会が多くなる点が挙げられる。一方でお土産の購入は、宿泊客に多く見られるが、日帰り客より衝動買いが少なく品定めしてから購入するケースが多い。「旅行中の移動」については滞在時間が長くなるにつれて移動距離が長くなることによる不便さが満足度を下げる要因となっているようである（表 4-3）。

表 4-3 宿泊客の満足度

	平成 30 年 日帰り+宿泊客	平成 30 年 宿泊客	平成 20 年計画策定時 の平成 30 年目標値
食事	85.0	93.2	70.0
みやげ品	65.7	52.4	50.0
観光施設やその内容	70.3	69.1	55.0
当地までの案内看板などの整備状況	63.0	52.4	50.0
旅行中の移動	62.4	54.6	50.0
観光施設、街の人たちのおもてなし	77.0	86.0	65.0
当地での情報収集	64.1	69.1	50.0
旅行全体	78.2	83.7	80.0

## 6. 観光消費額

観光消費額は、以下の表の通りであるが、宿泊費においては「日帰り+宿泊客」が「宿泊客」より多くなっているが、「宿泊客」の調査を旅館とビジネスホテルそれぞれ1軒で行ったためである。「飲食費」「おみやげ費」においても「日帰り+宿泊客」の消費額が「宿泊客」を上回っているが、利用率では「宿泊客」の方が高い（表 4-4）。経済効果を高めるためには「宿泊客」の増加が重要だと言える。

表 4-4 項目別1人当たりの平均消費額

単位：利用率は%、平均消費額は円

	平成 30 年 日帰り+宿泊客		平成 30 年 宿泊客	
	平均消費額	利用率	平均消費額	利用率
宿泊費	12,031	13.2	8,797	-
飲食費	4,658	62.2	4,552	73.9
おみやげ費	3,634	34.6	2,937	52.2
交通費	1,830	7.9	1,833	28.2
川下り費	1,296	33.9	1,452	50.0
入場・観覧・利用料等	879	19.8	725	30.4

注：利用率は、アンケート票に消費額を記入した観光客数の割合。

### 【アンケート票の裏紙を使ってお寄せいただいたご意見】（自由記述の回答をそのまま掲載しています）

#### 旅館宿泊の女性（50代）

30年前に柳川を訪れました。その時、風情ある町並みが気に入り、今回家族を連れてきました。しかし、柳川は30年前とほとんど進んでいないと思いました。それは「開発が」ではなく、「歴史観光文化都市として」進んでいないということです。これだけの歴史的遺産を持ちながら、生かされていない。ハード面、ソフト面ともです。

もっと自らの町の歴史に誇りを持った方がいい。全てそこから始まるのではないのでしょうか。その上で訪れる人たちの目線に立って考えれば自ら何が足りないのか見えてくるはず。 「歴史」と「文化」を大切にされた方がいいと思います。それが柳川らしさだと思います。

今回、こうしたアンケートを実施されていることを知り、町が本腰を入れて取り組もうとしているのだと感じました。とてもいいことです。次に柳川を訪れた時、いい町になったなと思えたらいいですね。頑張ってください。

#### 20代の女性です。改善してほしい点を箇条書きにします。

- ・飲食店が少なく閉まるのが早い。17時頃にはほとんどの店がしまっており、夕食を食べる場所を探すのが大変でした。

- ・川下りの船頭さんがディスリすぎる。川下りに参加しましたが、船頭さんが町の説明をしながら毎回それをディスるので、町の良さが全く伝わりませんでした。

せっかく、SNS映えるステキな町なのにもったいないと思いました。

## アンケートご協力をお願い

この調査は、皆様の率直なご意見をいただき、観光客の受け入れ環境や観光地として求められていることなどを調べ、観光諸政策の基礎資料とするために行うものです。

調査員氏名： \_\_\_\_\_ 調査地点： 沖端

平成30年〇月〇日  
柳川市観光課

**問1 あなたのお住まいはどちらですか。(〇は1つだけ)**

- ①福岡市内 ②福岡市以外の福岡県( \_\_\_\_\_ 市町村) ③福岡県以外の九州( \_\_\_\_\_ 県)  
④九州以外の地域 都道府県名:( \_\_\_\_\_ ) ⑤外国( \_\_\_\_\_ )

**問2 今回の旅行は何人で来られましたか。(〇は1つだけ)**

- ①1人 ②2人 ③3人 ④4人 ⑤5~10人 ⑥11~14人 ⑦15人以上( \_\_\_\_\_ 人)

**問3 今回の旅行形態は次のどれですか。(〇は1つだけ)**

- ①個人(手配)旅行 ②15人以上の団体旅行 ③パック旅行 ④日帰りバスツアー ⑤その他( \_\_\_\_\_ )

**問4 柳川へ来るのは何回目ですか(〇は1つだけ)**

- ①初めて ②2回目 ③3回目 ④4回以上

**問5 当地までの主な交通手段は何ですか(〇は2つだけ)**

- ① 自家用車 ②西鉄電車 ③貸切バス ④JR 在来線 ⑤路線バス ⑥飛行機  
⑦ タクシー ⑧レンタカー ⑨新幹線 ⑩自転車/バイク ⑪その他( \_\_\_\_\_ )

**問6 今回、当地を訪れた理由(動機)／期待は何ですか(〇は主なものを3つまで)**

- ①祭り・イベントがあるため ②「まち歩き」のため ③「川下り」のため ④温泉に入るため  
⑤食事をするため ⑥体験(ゆるり旅)に参加するため ⑦やすらぎを求めて  
⑧訪れたい名所・旧跡があるから ⑨訪れたい観光施設(記念館等)があるから  
⑩利用したい宿泊施設があるから ⑪以前にも訪れたことがあるため ⑫業務や商用のため  
⑬冠婚葬祭 ⑭親戚訪問 ⑮特に理由(動機)はない ⑯その他( \_\_\_\_\_ )

**問7 今回、あなたが柳川市内で使う(使った)費用(ご家族、グループの場合は一人当たり)は、予定も含めてどの位ですか。(宿泊しない、わからない等の場合はそれぞれに〇をつけてください)**

宿泊費	およそ _____ 円	しない	わからない
飲食費	およそ _____ 円 (具体的に _____ )	しない	わからない
おみやげ費	およそ _____ 円 (具体的に _____ )	買わない	わからない
市内交通費	およそ _____ 円	利用しない	わからない
川下り	_____ 円	利用しない	わからない
入場・観覧・利用料等	およそ _____ 円	しない	わからない

**問8 今回の柳川観光の満足度についてお伺いします。(項目ごとに〇をお付けください)**

	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
食事	5	4	3	2	1
みやげ品	5	4	3	2	1
観光施設やその内容	5	4	3	2	1
当地までの案内看板等の整備状況	5	4	3	2	1
旅行中の移動	5	4	3	2	1
観光施設、街の人たちのおもてなし	5	4	3	2	1
当地での情報収集	5	4	3	2	1
柳川旅行全体	5	4	3	2	1

**問9 柳川観光について改善してほしいことは何ですか。**

**問10 あなたの年齢をお答えください。**

1. 20歳未満 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代  
5. 50歳代 6. 60歳代 7. 70歳代 8. 80歳以上

男 ・ 女
柳川での滞在予定時間
時間 分

ご協力ありがとうございました。

# 柳川市観光客動態調査報告書

平成 30 年 3 月

発行 柳川市産業経済部観光課